

親と子どもの距離感

親は様々な子どもの行動に関して、どこまでどのように口出しをすれば良いのでしょうか？

食べ物の好き嫌い、友達付き合い、勉強、習い事、男女関係、進路…言い過ぎか、遠慮し過ぎか、親としても悩むところではないでしょうか。

<子育ての目的は自立と自律>

まず、再確認しておく必要があるのは、子育ての目的は「自立と自律」です。以前の号でも紹介しましたが、「身体的・精神的・経済的自立」と「自分で自分を律する自律」です。子どもは生活していく中で様々な壁にぶつかりますが、その壁を親が可哀想だと取り除いてしまうと、避ける知恵も乗り越える力も奪ってしまうことになりかねません。

<チェックポイント①>

「止めなさい!! 何度言ったら分かるの!!」注意しているのに繰り返し同じ行動を取ると親は困ります。ちょっと考えてみましょう。してはいけない理由を伝えましたか？ その理由を理解できたようですか？ 親の都合ではなく子どもの価値観でも大切なことですか？ できない理由を聴いてみましたか？ その理由をまず「そうなんだ」と受け止めましたか？ 叱り方を変えてみましたか？ 失敗を待つゆとりが必要ではありませんか？ そのしてはいけない行動は、本当に自立の妨げになる事ですか？

<親の知らない子どもの世界>

そして再確認のもう一つは、親と子どもの生活環境は違うという事です。年齢の差は一般的に20~30歳離れています。この間に様々な事が変わっていますし、いろいろな事件も起きています。親は子どもの安全管理のために、子どもがいつどこで何をしているかを知ること出来ますが、逆に言えば、現代の子どもたちはいつも親の管理下に置かれているという事です。親が思っている以上に子どもたちは窮屈で自分の力を自分の意思で試す機会に恵まれていないようです。

<チェックポイント②>

「どうしてもすぐカッと感情的になるんだろう…」近年、衝動的に切れる子どもが増えています。ちょっと振り返ってみましょう。子どものスケジュールが詰まり過ぎていませんか？ 何でも親の言うことを聞く「いい子」ではありませんか？ 自発的な行動を褒めていますか？ スポーツをしているからストレス発散ができていないと思いませんか？ 叱るだけでなく褒めていますか？ すぐに結果を求めていますか？ 親にとって無意味な行動でも見て見ぬ振りができますか？ 自然に喜怒哀楽を表していますか？

<望ましい距離感>

親の意見や考え方を子どもに伝えるのはとても大切なことです。たとえ親と子どもの価値観が違っていても、親として子どもに伝えたいことは、嫌われることを恐れずに毅然とした態度で伝える必要があります。ただ、せっかく伝えたい大切な事であれば、親も知恵を絞って、時を変え場所を変えタイミングを見計らって、子どもに伝わるように分かりやすく伝えたいですね。

「親」という漢字の通り「木の上に立って、広い視点から子どもを見守り、ここぞという時に飛び降りて諭す」、それが望ましい親と子どもの距離感ではないでしょうか。